

ドイツ連邦食料・農業省 農林漁業最新情報
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 14
2019・7・14

1 連邦コンクール：第26回”我々のむらは将来を”の表彰

(2019・7・11)

連邦食料・農業省が第26回コンクールの優秀な村を公表した。今日木曜日に審査会が第26回連邦コンクール”我々のむらは将来を”の勝者を選出した。

8の村が金賞でもって表彰される。金賞の村は、卓越した住民参画でもって、模範的な理念と将来を指向した構想が、審査会を納得させた。更に15の村が銀賞、そして7の村が銅賞を得た。

さらに以下の6の村が各3000ユーロ（約39万円）の賞金を授与される。

- ・「むらにおける文化」ーガールリッツ（Garlitz）村
- ・「革新のための住民参画」ーランゲンライヒエンバッハ(Langen reichenbach)村
- ・「むら発展のための結束」ーオーバーレッシュ（Oberesch）村
- ・「急進主義に反対する住民参画」ークバルネーベック（Quarnebeck）村
- ・「種一生態系保護のための住民参画」ーライヒエンーウルム（Reichen-Ulm）村
- ・「若者のむら共同体は近代的な理想像を実践」ーヴァルトキルヒエン
(Waldkirchen) 村

金賞の村は15000ユーロ（約195万円）、銀賞の村は10000ユーロ（約130万円）、銅賞の村は5000ユーロ（約65万円）の賞金でもって表彰される。

さらにクレックナー大臣は述べた：私はこのコンクールで30の村が連邦賞を受賞したことに、心からお祝い申し上げる。村の優れた共同体は、無給の奉仕に立脚していることに感銘を受けた。これらの村々は、住民参画を印象深く実現したことを立証した。

このことは我々の社会的結合を深め、さらに農村での基本的な立地一居住要素である。この受賞村は、むらレベルでの魅力的なイメージを、成果多く実現している。例えば、かつての農場を世代を超えた住居に活用できるように改築、住民の手による給水、無料の無線ーLANーNetzの設立または電動車両での村の中の移動の可能性を確保、再生エネルギー生産のための多様な施設でもって、村のエネルギー自給を実現、アーチェリー場の庭園改造と同時にさらなる余暇の可能性を創り出すことなど。

クレックナー大臣：この受賞村の中に、多くの優れたそして賢い構想が示されている。住民は自らの故郷と固く結びついていることを感じており、さらにより良くしたいと思っている。例えば、自分の村の近辺でのエネルギー供給、または移動手段の確保などの挑戦に、立ち向かっている。我々のむらコンクールと賞金の授与でもって、私はこれへの参画を評価している。我々は、同時にこの問題解決に際して、他地域の村社会に対する手本と動機づけとして気づかせたい。

背景情報

連邦食料・農業省は、むらの総合的な発展と住民参画を、既に 26 回表彰している。この連邦コンクールは、むらの発展のための問題解決の手がかりとむらの共同体的な業績を、国内に広く紹介している。これらは、農村発展の革新的な手がかりの奨励と試行に役立つところの、連邦プログラム農村発展 (BULE) の構成要素でもある。

全ドイツから 1 900 弱の村々が、表彰を目指して第 26 回の連邦コンクール「我々のむらは将来を」に参加した。そして全体で 30 の村が、最終選考で選ばれた。審査委員会は、4 週間の長きにわたって、村から村へと旅をした。その際特に、村の発展構想と経済的イニシアチブ、社会的・文化的な活動、建築の具体化、村の発展並びに住民の積極的な参画、そして自らの周辺と村の計画とその具体化を評価する。

審査委員会は連邦食料・農業省の協力者と並んで、さらに各組織や団体の代表者で構成されている。審査委員会のさらなる構成は、幾つかの州の農業大臣、市町村連盟、ドイツ農民連盟、ドイツ農村女性連盟、連邦園芸―農村景観―スポーツ施設建設協会、ドイツ景観保護連盟、ドイツ園芸協会連盟、ドイツ景観施設連盟、連邦市民参画ネットワーク、ドイツカトリック農村青年連盟並びに故郷・環境連盟である。

この伝統的なコンクールは 1961 年以来、確固たる農村発展の構成要素であり、そして人々を動機づけし、彼らの将来展望を自ら決定し、農村での生活の質的改善に対して、積極的に参画することを促す。このコンクールの表彰は、ベルリンで 2020 年 1 月 24 日の国際緑の週間の分野において実施される。

2 EU－農業・漁業理事会がブリュッセルで開催予定

(2019・7・8)

農業－漁業理事会が、2019年7月15日に開催される。これには、連邦食料・農業省クレックナー大臣が出席する。このため、我々は要望を具体化するために、予め早い時期に情報を入手したい。

1 この理事会は環境－気象の視点のもとに

EU－共通農業政策（GAP）のための考え方の交換

- ・ 2020年以降のGAPに関するEU－委員会の提案の中に、より高い環境－気象保護の目的達成のために、どのような要素を含むのか。
- ・ 環境－気象上の野心を高い尺度で達成するために不可欠な改善を、内容とすべきか。農業者の実践可能なことと地方の多様な条件下で、行政手続きの簡素化の観点を配慮して。

理事会において連邦大臣クレックナーは、これまでの”緑の建築物”政策を評価したいとしている。その際、彼女はEU－域内のための「ガードレール」について、自らの要請に関して重要な条件を統一した実践に尽力したい。

- ・ 生態系－規則（GAKの第1の柱のエコ計画）は加盟国の義務であるべきである。連邦食料・農業省は、補完的に義務付けられた最低限の予算を要求する。
- ・ 非生産的な土地と構成要素の統一的な最低割合が、決められるべきである。
- ・ 気象－環境政策のためのELER（訳注・農村地域発展のためのヨーロッパ農業基金を通じた農村地域発展奨励規定）の支出30%の最低割合は、発展報告の中に含まれている。
- ・ これと並んでGAPの他の支出（所得、農村地域）と社会的に重要な要請としての、家畜の福祉が指摘されるべきである。

2 砂糖分野における市場状況

問題は砂糖市場が歪められていることである。特に世界一域内市場価格が、著しく低下している。砂糖分野における状況が傾いているが、ドイツは将来的な市場支持政策を認めない。連邦大臣クレックナーは、幾つかの加盟国においてネオニコチノイド系農薬について、追跡調査のできないような緊急時の使用認可、並びにビート栽培のための直接支払いによる競争の歪みを、一貫して指摘している。

EU 一委員会は、既に 2019 年 1 月に加盟国内の高位の専門家グループを招集している。全体的に専門家グループの 3 つの会議で、加盟国、利害関係者、専門家との間での広範な議論を開始している。今、グループの最終報告書が提出された。その中に砂糖政策についても、モニタリングが続いており、ドイツとヨーロッパ委員会の方針の原則を、グループが認めている。

個々には

- ・民間貯蔵庫の補助金のような市場管理政策の支援について、今のところ計画されていない。
- ・任意の支払い実施並びに加盟国内のネオニコチノイド系農薬の緊急時の認可について、厳しい再検査がなされるべきである。
- ・同じく収入安定の手段強化と再検査と GMO（専門分野の取り決め、生産者組織）の可能性の十分な活用を図るべきである。
- ・市場透明性は価値創造チェーンの中における生産者の地位強化のために、さらに改善されるべきである。
- ・砂糖分野の多様化と構造改革のための EU 一構造基金と、ヨーロッパグローバル化基金使用のための可能性を、汲み尽くすべきである。
- ・第三国における通商を歪める政策への反対を、外国貿易の分野においても強めるべきである。

報告書の結論は我々の連邦省の方針に基礎をおき、そして支援が可能である。特に市場支援政策を講じないことを歓迎する。

3 バルト海の魚の生息数を回復しなければならない

(2019・7・9)

連邦漁業大臣クレックナーは、沿岸漁業の利益について EU 一レベルで尽力している。クレックナーは、昨日リュージェン島（訳注・バルト海にあるドイツ最大の島）でのユーロバルチック漁業加工経営（この地域で最も大きな雇用者である）を訪問した際に、沿岸一小型漁業、科学、政治の代表者と沿岸漁業の困難な状況について意見交換した。

当地の州農業一環境大臣、Dr.テイルバックハウスが、漁獲活動の一時的停止しているバルト海の漁業者に、財政的支援を認めていることに感謝した。クレックナー大臣は、”我々は、漁業者の生計を長期的に確保するために、今後とも彼らを支援する。なぜならば、期限づけられた漁獲停止段階を通じて、魚の生息数を持続的に安定させるためである”と、述べた。

特に西部海域ニシンと東部海域のタラについて、その生息数の維持が困難な状況にある。その理由はニシンについて勿論漁獲量でなく、気象変動の影響である。数年来、バルト海において海の温暖化によって、幼魚の栄養がまだ不足しているときに産卵される。つまり、産卵が早すぎる。クレックナー大臣：“多くの魚の生育状況は、私にとって大きな懸念となっている。これは持続的に回復してきているが。特にこのことは、現地の漁業者と魚の加工経営の関心事でもある。

この分野では世代を超えてこの職業を営み、多くの家族が漁業で生活していることが、この地域の特徴である。それだけに一層私は、懸念と関心事を理解している。彼らはここ数年来減り続ける漁獲量と、代りとなる漁獲の可能性が全くない。そのため、ドイツはヨーロッパレベルで西部海域のニシンと、東部海域のタラの回復のための広範な行動プランに対して、積極的に参画していく。特に沿岸漁業の利益に配慮したい”と、大臣は強調した。

”ルクセンブルグにおける過去の農業―漁業理事会において、明確にしたように漁業者の生き残りを確保したい。それにも拘わらず、漁業者には一時的な漁獲行動の停止が加わるので、我々はこれを補助金で支援する。私はイギリスのEU―離脱の影響、並びに鵜によって引き起こされる被害が生じたときに、彼らの関心事を視野に入れる”と、大臣は続けた。クレックナーがはっきりと示した連邦省のテーマは、重要な関心事である。

政務次官ミヒャエル シュトープゲンは、既に今日「バルト海漁業 2020」の円卓会議に招かれた。この会議では、各州、国会議員、科学者そして漁業連盟とともに、共同で当面の状況を正確に把握した。バルト海漁業者支援のために、可能な政策が議論された。その際、特にEU―委員会が計画している東部海域のタラのために、年末までの完全な漁獲停止が計画されている、緊急対策もまた重要である。

これについて政務次官：“我々はブリュッセルにおいて、特にリュージェン島周辺の海域における、沿岸漁業のために目指す例外措置に尽力している。なぜならば、計画されている漁獲停止は、直売に依存しているバルト海の手作業の小規模漁業に対して、破壊的な影響をもたらすからである。これは地域のアイデンティティーのために、重要な貢献をしている地域的な構造である。我々はこれを維持したい。

2019・7・12 訳
青森中央学院大学
中川 一徹